

施策評価（令和6年度）

施策評価調査

戦略4 未来創造・地域社会戦略			
目指す姿4 変革する時代に対応した地域社会の構築			
幹事部局名	あきた未来創造部	担当課名	あきた未来戦略課
評価者	あきた未来創造部長	評価確定日	令和6年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

時代の大きな流れを捉えながら、人口減少下においても持続可能な活力ある地域社会の構築を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 差別等を感じた人の割合(%)	目標			32.0	31.5	30.5	29.5	80.3%	2	
		実績	—	32.6	45.6	37.7					
	出典:県「県民意識調査」	達成率			57.5%	80.3%					
②	【施策の方向性②】 地域運営組織の形成数(件)	目標			3	3	3	3	133.3%	4	
		実績	—	—	4	4					
	出典:県調べ	達成率			133.3%	133.3%					
③	【施策の方向性③】 社会活動・地域活動に参加した 人の割合(%)	目標			58.0	60.0	62.0	64.0	104.0%	4	
		実績	57.6	57.3	60.0	62.4					
	出典:県「県民意識調査」	達成率			103.4%	104.0%					
④	【施策の方向性④】 立地適正化計画を策定した市町 村数(累積)(市町村)	目標			8	9	9	10	77.8%	1	
		実績	5	5	6	7					
	出典:県調べ	達成率			75.0%	77.8%					

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 $\geq 100\%$ 3点: $100\% > \text{達成率} \geq 90\%$ 2点: $90\% > \text{達成率} \geq 80\%$
 1点: $80\% > \text{達成率} \geq 70\%$ 0点: $70\% > \text{達成率}$ n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
2.75 (d相当)	4点 × 2個 = 8点 1点 × 1個 = 1点
	3点 × 0個 = 0点 0点 × 0個 = 0点
	2点 × 1個 = 2点
	合計 11点 ÷ 4個(判明済み指標) = 2.75

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
 d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 優しさと多様性に満ちた秋田づくり】

- 差別等の解消に関して、複数のメディアを活用した広報・啓発のほか、県・市町村職員や県民等に対する講座を実施し、アンケートを行ったところ、CMや動画が分かりやすかった旨の回答が複数あり、多様性に関する普及啓発は進んでいるものと考えられる。
- SDGsの理念を普及・浸透させるため、啓発セミナーを開催（1回）したほか、SDGs達成に向けた取組の普及・充実を図るため、「あきたSDGsアワード2023」を実施し、様々な主体における自主的・積極的な活動の展開につながる機会を提供した。

【施策の方向性② 地域住民が主体となった地域コミュニティづくり】

- 複数の集落からなる新たな生活圏（コミュニティ生活圏）や活動主体となる地域運営組織の形成に向けて行っている8市町19地域の取組に対し、地域づくりの各分野に精通した専門家を派遣したほか、3市において女性の参画により生まれた新たな活動やネットワークづくりを支援した。
- 住民自らが地域の維持・活性化に取り組む「元気ムラ」活動を継続的に展開するため、集落同士の交流を図る「あきた元気ムラ大交流会」を大館市で開催したほか、集落活動コーディネーターが、「元気ムラ」活動を行っている95地域の資源の掘り起こし及びウェブサイト等による情報発信を行った。

【施策の方向性③ 多様な主体による協働の推進】

- 多様な主体による協働の実践モデルを創出する県民提案型協働創出事業をNPO等と県が協働で行うことにより、市民活動が活性化された（事業件数：6件）。
- 県内3か所に設置する市民活動サポートセンターにおいて、市民活動に関する相談対応（1,867件<△62件>）や「市民活動情報ネット」を活用した情報発信（774件<+46件>）を行い、活動への参加を支援した。

【施策の方向性④ 持続可能でコンパクトなまちづくり】

- 地域住民や市職員を対象としたまちづくりを担う人材育成に向けた講習会を立地適正化計画を策定する予定の仙北市で開催し、令和6年度は五城目町で開催予定である。
- まちの再生や賑わい創出として、空き家や空き店舗をリノベーションした取組事例（6件）や公共空間を利用した取組事例（1件）をウェブサイトで紹介している。
- コンパクトなまちづくりを推進するために、立地適正化計画を新たに小坂町が策定し、令和6年度は由利本荘市が策定予定である。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
d	成果指標の達成率を基にした定量的評価は2.75で「d相当」であることから、総合評価は「d」とする。 【定性的評価として考慮した点】

4 県民意識調査の結果

質問文	優しさと多様性に満ちた秋田において、協働等を通じて安心して生活できる地域社会となっている。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	10.0%	9.4%			△0.6
	十分 (5点)	0.9%	1.0%			+0.1
	おおむね十分 (4点)	9.1%	8.4%			△0.7
	ふつう (3点)	48.7%	39.6%			△9.1
	否定的意見	28.8%	39.7%			+10.9
	やや不十分 (2点)	17.2%	23.9%			+6.7
	不十分 (1点)	11.6%	15.8%			+4.2
	わからない・無回答	12.4%	11.2%			△1.2
	平均点	2.66	2.49			△0.17

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 多様性に満ちた社会づくりの基本理念の理解促進を図るCM等の広報やSDGsの普及啓発を展開しているが、引き続き寛容な社会に向けた取組等が求められている。	○ 多様性に満ちた社会づくり有識者会議や関係者によるワークショップのほか、SDGsに関する優れた取組の表彰・周知など、更なる県民の理解促進に向け、取組を進めていく。
②	○ 人口減少や少子高齢化の進行に伴い、中山間地域等の集落においては、日常生活に必要なサービスの低下や担い手不足が懸念されている。	○ 市町村との連携のもと、集落でのワークショップの開催などを通じて、地域内の多様な主体で構成される地域運営組織の形成を支援するほか、地域活動に関心のある女性同士が交流できる場を提供することにより、女性の地域活動への参画を促進する。
③	○ 地域課題が多様化・複雑化する中、協働の担い手となるNPO等が新たな課題に対応できるよう、市民活動の基盤強化が求められている。	○ 市民活動サポートセンターにおいて市民活動に関する各種相談対応を行うとともに、NPOによる新たな課題解決に向けたネットワーク体制整備の取組を支援する。また、活動を資金面で支援する市民ファンド「あきたスギッチファンド」と連携した取組を進める。
④	○ まちづくりに向けた多様な関係者による活発な議論の場は増えつつあるが、県全体に浸透するまでに及んでいない。	○ 市町と連携し、多様な組織がまちづくりに関わることができるよう、市町の情報交換の場や様々な主体が加わる講習会等の機会を提供するために調整を図る。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「d」をもって妥当とする。